



町長就任のごあいさつ

小坂町長 細越 満

年後の小坂町のめざす将来像を、「人と自然と文化を未来につなぐ魅力あふれるまち」としました。住む人が愛着を持ち、訪れる人が感動するまちとなるよう、皆さんのご協力のもと、職員と一丸となって各種施策の推進に取り組んでまいりました。

小坂町長として、4月12日から五期目の任に就きました。

四期目の任期と同時にスタートした「第6次小坂町総合計画」は、町民の目線、町民が望むまちづくりに重点を置き、町民アンケートの実施、まちづくり委員会や高校生からなるまちづくり未来委員会の皆さんからのまちづくりに対する意向を確認し策定いたしました。小坂町には、十和田湖をはじめとする自然と共生する豊かな環境や、鉱山の町としての近代化産業遺産など、「ひと」「自然」「文化」の様々な魅力が、現在のまちや暮らしの中に共有財産として受け継がれています。こうした魅力を地域の個性としてまちの発展に生かし、町民と共有しながら、「これから住み続けたい」という誇りとして未来へ継承していくため、10

クルルの当町開催、そして待望の「道の駅十和田湖のオープン」など、前期計画に掲げた事業は概ね実施することができたと思っております。

また、四期目の任期がスタートした令和3年はコロナ禍のあった中であり、その影響が長期化するなか、町民の皆さんに安心して生活してもらえるよう、迅速なワクチン接種の実施により感染症拡大を防止し町民の生活を守るとともに、雇用の維持と事業継続の確保に向けた取り組みや、国の地方創生臨時交付金を活用した地域応援商品券や燃料券の発行など、家計や地域経済に対し、町としてできる限りの支援を続けました。

五期目の任に就き、引き続き「町民が主役のまちづくり」を念頭におきながら各種施策に取り組んでまいります。

今年度は、第6次小坂町総合計画前期基本計画の最終年にあたりますので、まずは令和8年度から始まる後期計画の策定に取り組みます。前期計画同様、町民アンケートやまちづくり委員会など、町民の皆さんや町に

関係する皆さんのご意見やご提言をいただいたり策定してまいります。

人口減少対策は町の最重要課題ですが、今住んでいる人が小坂町に「住み続けたい」「住んでいてよかった」と思えるまちづくりを進めることが重要であると考えています。これまで力を入れて取り組んできた若者をターゲットとした移住定住施策や、他の自治体と比べても決してひけをとらないと自負している、充実した子育て支援施策などは引き続き継続して実施しながら、新たに脱炭素社会の実現に向けた「地球温暖化対策実行計画の策定」や、「高齢者福祉施設の移転整備」、「町中心部の再開発」などに取り組んでまいります。これからのまちづくりは、全て行政が担うのではなく、町民と行政が同じ問題意識を持ち、行政がなすべきこと、町民ができることなど、それぞれの役割を明確にしながら、協働により進めていかなければなりません。行政運営はオープンにし、町民の皆さんとの対話を大事にしながら、町民ニーズに的確に対応していくための行政運営に誠意努めてまいりますので、さらには前へ進められるよう、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。